

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

経済学の研究と教育に 生涯を捧げる

『近代日本と経済学』

—慶應義塾の経済学者たち—

池田幸弘（経済学部教授）、
小室正紀（名誉教授） 編著
慶應義塾大学出版会／4752円（2015年9月）



近代日本と経済学

慶應義塾の経済学者たち
池田幸弘・小室正紀 編著



福澤諭吉以来の慶應義塾における経済学の研究と学びは、日本における経済学の導入、展開、発展に大きく寄与してきた。2014年「慶應義塾の経済学」という講義が、義塾の教員および外国人を含む気鋭の研究者によって開講された。福澤諭吉、小幡篤次郎、ドロップパーズ、堀江帰一、気賀勘重など、義塾で教え、また義塾が育んだ経済学者を中心テーマとするもので、その講義に準拠しながら各講師が義塾の経済学者について自由に語っている。彼らの学問と主張をたどることで、義塾が日本の経済学に果たした功績を知ることができる。

教職員執筆の最新刊

●坂爪 裕（経営管理研究科教授）著

『改善活動のマネジメント—問題発見・解決能力を組織に蓄積する』
慶應義塾大学出版会／2916円（2015年9月）

●松岡和美（経済学部教授）著

『日本手話で学ぶ—手話言語学の基礎』
くろしお出版／2700円（2015年10月）

●山内志朗（文学部教授）著

『小さな倫理学入門』慶應義塾大学出版会／756円（2015年10月）

●米沢富美子（名誉教授）著

『不規則系の物理—コヒーレント・ポテンシャル近似とその周辺』
岩波書店／4968円（2015年10月）

●片山善博（法学部教授）著

『民主主義を立て直す—日本を診る2』
岩波書店／2052円（2015年11月）

●マイク・フェザーストンほか編著、近森高明（文学部准教授）訳

『自動車と移動の社会学—オートモビリティーズ』
法政大学出版局／6372円（2015年11月）

慶應義塾のこの一冊

『慶應義塾幼稚舎—疎開学園の記録 上』

慶應義塾幼稚舎「疎開学園の記録」
編集委員会編
慶應義塾大学出版会／2700円
（2015年11月）



幼稚舎は、太平洋戦争激化による空襲から避難するため、1944年8月に伊豆修善寺に集団疎開し、翌45年6月末には敵の関東上陸に備えて、青森県木造町に再疎開した。帰京まで約14カ月間の集団生活「疎開学園」である。

本書は、疎開70年を機に、疎開学園に関する文章や記録をまとめたもの。児童の日記、親子間の書簡、疎開者座談会などを紹介する貴重な資料であるとともに、戦時下の幼稚舎生の生活を知る読み物としても興味深い。1年後には木造での生活も含めて、下巻を発行する予定。